

# 陣友音信(四)

— 歲暮雜感 —

倉橋惣三

一八

○この年を送るにつけて、この苛烈な大戦下に、幼児保育者としての職分を以て、保育報國の御奉公をつとめることの出來た私どもは、まことに有り難いことでありました。

○それにしても、今年、東京都その他で幼稚園の當分休園といふことのために、保育界から離れることになられた人々に對してはなんともお氣の毒にたへません。幼稚園の當分休園の時局的理由は別として、この幼児保育者の多く準備せられてゐなければならぬ際に、あの熟練な保母さん達を失つたことは、心あるものゝ皆遺憾とせるところでありました。文部省が、高等女學校の生徒に保育實習を必修させてまで、非常の必要に處し、國の大切な幼児の護り手を作らうとしてゐる時にです。更に又、急に楽しい幼稚園を閉された幼児達の生活と教育とに就ては、心あるものゝ憂慮にたへないものがありました。疎開が一番いゝことは勿論ですが、残らずの幼児が疎開出来るではありません。その子たちは幼稚園から母の手に歸されるといふのですが、その母の手が忙し

いのです。そこで、母の手よりも街頭に出されました。從來のやうに、遠方の子が集團する幼稚園は危険であるとして、幼児を街頭や留守家庭に置くのは尙危険です。此の狀態下に新しい幼稚園方式が案出せられる筈でした。——併し、今は戦時下、多くは言ひますまい。たゞ、その保母さん達の分と、その幼児たちの分と、それが、今私たちの保育心に乗り移つてゐることだけないふに止めて置きませう。

○が、日本の幼稚園令は嚴として存してゐるのであります。時局に鑑みての幼稚園の當分の休園を、幼稚園そのものゝ閉止や、況んや禁止と間違へてはなりません。あわてた人や、日頃幼児保育に無關心の人々の中にはそんな取り違ひをしてゐることもあるかも知れませんが、勅令による幼稚園令の權威は忘れないで下さい。況して、休園といつても、全國としては一部のことです。大多数の幼稚園と大多数の保育者ですが、戦時下の幼稚園として、その御奉公に奮闘してゐるのであります。

○それにつけても戦時保育の眞使命は、充分研究せられ充分實現せられなければなりません。それは軍需と生産に多忙な戦時の母の手を助けるといふことを大きな任務とすると共に、決してそれだけで終るものではありません。それは、いふまでもなく、皇國の大切な幼児の成長のための保育施設です。そして、保育施設とは、厚生施設であると共に教育施設であります。教育施設であると共に厚生施設であります。戦時保育の眞の重要性は、この意味においてこそ存するのであります。

○と同時に、戦時保育の特色は、それに従事する保育者の、戦時的専心と戦時的努力とにあるのです。その嚴肅な特色を自ら眞實しないものによつて行はれるものは、決して戦時保育の名に値しません。平時においては、自分の趣味だけに基く、謂はゞ遊び半分の保育でも許されました。今日の戦時保育は、そんな道樂保育ではありません。平時においては、自分の全力を盡さない、謂はば閑仕事としての保育でも見のがされました。今日の戦時保育は、そんな片手間保育ではありません。戦時下の一切の生活と等しく、眞剣と全力との奉公保育のみが、戦時保育と名づけられるものであります。

○それだけに、今日の戦時保育者の勞も大であり、苦も亦少くありません。私はそうした陣友諸君に、多大の感謝を捧げると共に、その自重を望むこと切であります。

○自重の第一が、健康の注意にあることはいふまでもありません。健康によつてのみ、戦時保育の勞苦にたへ得るからであります。しかも、自重はそれだけではありません。眞の保育精神の充

實に就て、たえず意を用ゐるなければなりません。戦時保育はたゞがむしやらにやつてゆけるものではありません。國民保育の大使命を完全に果さなければならぬからです。更に、これらの自重と共に、保育者としての研究に一刻の怠りもあつてはなりません。なんとなく慌しく過ぎ易い戦時下の生活です。餘程自ら自重してゐないと、興奮ばかりして勉強を怠る日がつまきます。それは苟も國民の教育者として、自重してゐるとはいへません。

○自重を乞ふと共に、幼児保育者同志の勵ましあひ、慰めあひ、いたわりあひも亦、切に望ましいことであります。互に陣友であります。他の方面の人々は皆、それ／＼の部面に多事であり、劇忙であり、慰めも助けも求め難いのが戦時下の常です。陣友だけが互の力であります。

○この音信を認めてゐた最中、敵の空襲がありました。完備の防空陣で、その被害は輕微だといふことであります。私ども帝都の保育者は、帝都の幼児のためにその萬全を祈りつゝ、各自の部器に手落ちなきことを期して居ります。帝都以外、既に空襲を受けられた土地の保育者諸君の強い意氣にならつて。